

次年度の学校全体の長期欠席・不登校対策について考えていきましょう！

現在のみなさんの学校の長期欠席・不登校の児童生徒の状況はいかがでしょう？「昨年度30日以上休んでいた子どもが登校できるようになった」、「SC・SSW や関係機関とつながった」、「昨年度よりも不登校の児童生徒数が減った」といった学校があれば、その反対の学校もあると思います。**長期欠席・不登校対策について、次年度に向けて、学校長のリーダーシップの下、学校全体で考えてみましょう！**



学校の長期欠席・不登校対策の組織体制の段階イメージ



- ☐ 担任が全てに対応
- ☐ SC・SSW は来校するがあまり活用できていない
- ☐ 関係機関との連携はない
- ☐ 教室以外で児童生徒が過ごす対応はしていない
- ☐ 支援対象者リストは作成しているが、提出するのみ
- ☐ アセスメントシートがない
- ☐ ケース会議は未実施
- ☐ 不登校に対する優先順位が低い

- ☐ 担任以外も対応
- ☐ 養護教諭と連携
- ☐ SC・SSW に情報提供
- ☐ 関係機関と連携
- ☐ 教室以外で児童生徒が過ごす対応をしている
- ☐ 支援対象者リストは回覧のみ
- ☐ アセスメントシートはあるが方針や役割が不明確
- ☐ ケース会議を実施

- ☐ 一部教員の意識は高い
- ☐ 生徒指導主事が集団づくりの方針を提示
- ☐ 支援対象者リストを基に情報共有の会を設定
- ☐ SC・SSW が会議に参加
- ☐ SC・SSW がアセスメントシートに見立てを記載
- ☐ 自立応援室が充実

- ☐ 全ての教育活動が対策につながっているという意識が教職員にある
- ☐ 授業づくりと集団づくりが互いに補い合っている
- ☐ 魅力のある学校・学級
- ☐ 特別支援教育が充実
- ☐ 主体的な活動の推進

ステージ1

課題対応>未然防止
担任対応>組織的対応

ステージ2

課題対応+早期発見
担任中心+担任外対応
主観>客観

ステージ3

早期発見+未然防止
担任≧組織的対応
校内資源≧校外資源
主観≧客観

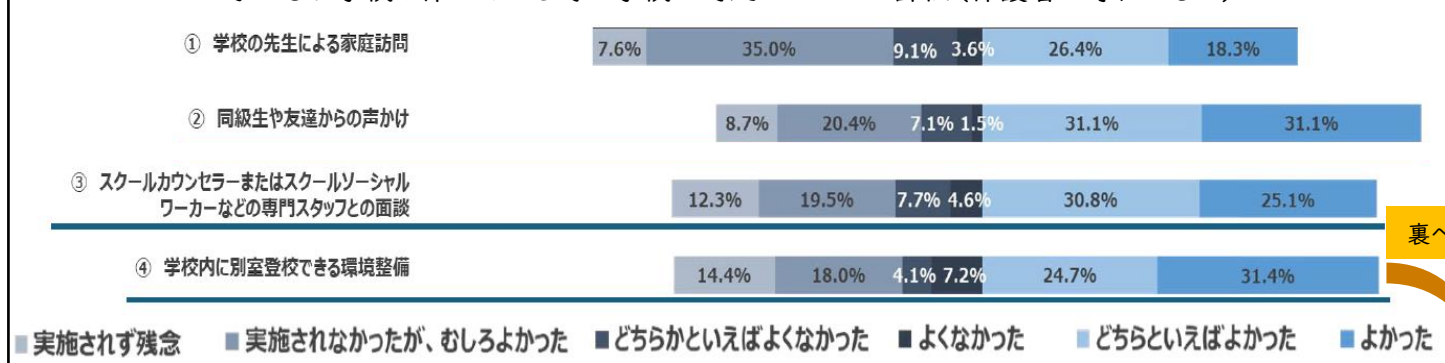
ステージ4

課題解決+未然防止
未然防止+発達支持的
担任+組織的対応
校内資源+校外資源
主観+客観
教師主導≧児童生徒主体

Q. なぜ SC・SSW との連携、自立応援室が必要なのか？

文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究（令和6年3月 子どもの発達科学研究所 一部抜粋）によると、保護者は、「学校の先生による家庭訪問」と比較して「同級生や友達からの声かけ」「**SC 又は SSW などの専門スタッフとの面談**」「**学校内に別室登校できる環境整備**」の方が肯定的な評価を与えていることが分かりました。教員による励ましや声かけももちろん大切ですが、**保護者は「具体的な対応」を求めている**ことの表れとも考えられます。

子どもが学校を休んでいる時の学校の対応についての評価（保護者に尋ねたもの）



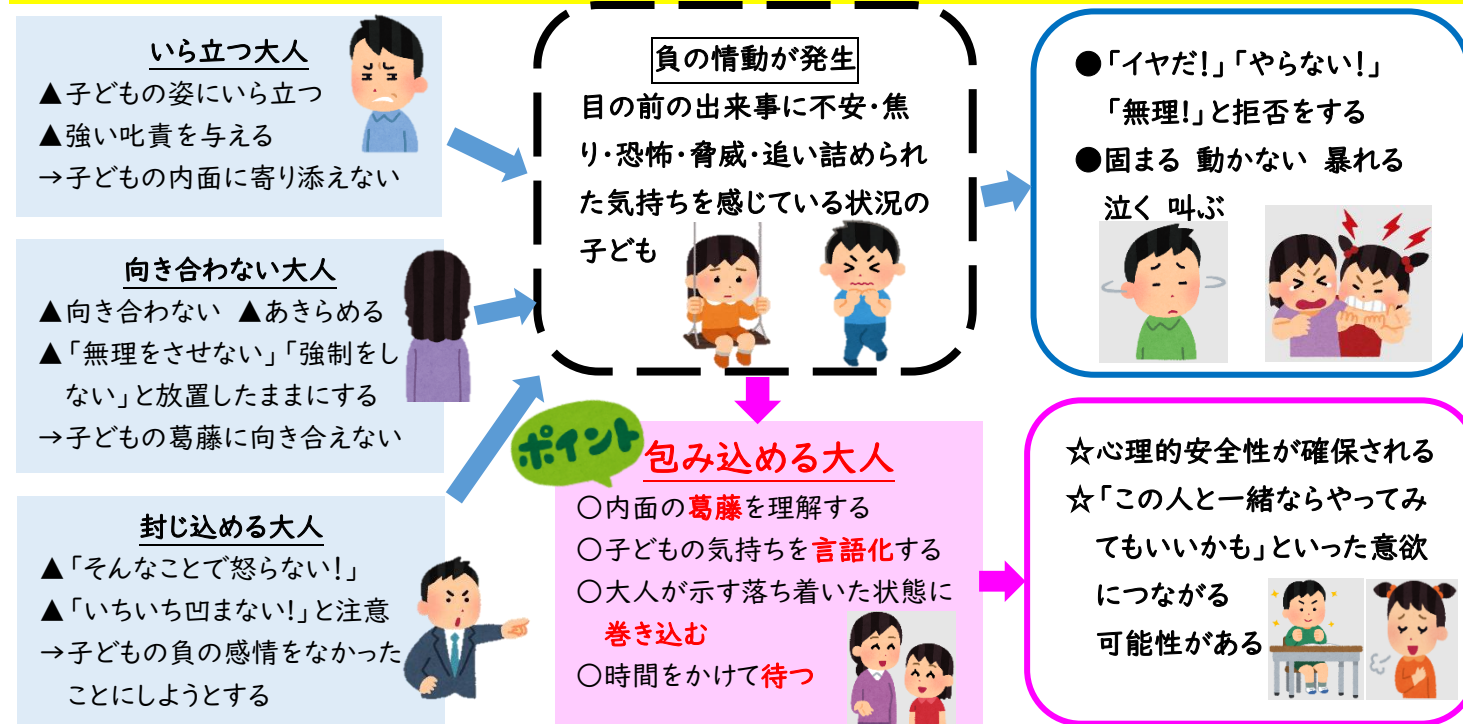
裏へ

Q.岡山県の長期欠席・不登校児童生徒への自立応援室の設置状況は？(令和6年5月1日現在 岡山県調査)

校種	常時開設している	開設していない
小学校	48.7% (134校)	51.3% (141校)
中学校	80.0% (92校)	20.0% (23校)

小学校の約5割、中学校の約8割の学校が自立応援室を設置しています。支援員等が配置されていない学校においても、校内で工夫をしながら教室以外の居場所を確保し、児童生徒に寄り添った対応をしている学校があります。

Q.子どもの行動変容を支える教師・支援者の立ち位置は？(特に自立応援室を利用する子どもに対して)



人が変わろうとする意欲は、その人の内面から沸き起こるものであり、外側から「変えよう」「直そう」「正そう」とするような外圧的な行動変容は、効果を発揮しない。内発的な行動変容のエネルギーは、「この人と一緒になら、少しは考えて見てもいいかな」といった「安全基地となり得る他者」の存在に支えられている。

(杉並区立済美養護学校 川上康則 主任教諭 特別支援教育研究 SEPTEMBER 2024 東洋館出版)

自立応援室を利用する子どもの中には、上記のような対応が必要な子どもがいるかもしれません。

Mini 研修

- ☆次年度の体制はどうしますか？ ☆支援方法を確認しませんか？
- ☆自立応援室の場所やレイアウト、ルールの変更はありませんか？
- ☆不登校対策スタンダードを終礼で7分間、みんなで読みませんか？

岡山型 長期欠席・不登校対策 スタンダード



岡山型 長期欠席・不登校対策 スタンダード



対応の基本、自立応援室のノウハウを再度確認したい場合等にぜひ活用ください!(岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 HP よりダウンロード可能)



「長期欠席・不登校対策は、児童生徒の学びの機会を保障すること」に他なりません。次年度の対策について、学校長のリーダーシップの下、今いる教職員で次年度に向けてベクトルを合わせ、今の時期から準備を進めることが大切です。